

刊行によせて

白百合女子大学人間総合学部初等教育学科
学科長 宮 下 孝 広

初等教育学科の設置初年度をようやく締めくくろうとしている現在、学科紀要『保育・教育の実践と研究』を世に送ることができる慶びを、学科のスタッフ一同とともに分かち合いたいと思います。この場を借りて、学科のスタートにあたってお力添えくださった皆様に、改めて、心より御礼申し上げます。

この紀要は、昨年度まで旧文学部児童文化学科児童文学・文化専攻で発行されておりました『白百合女子大学 初等教職課程論集』全八号を引き継ぐものであり、さらにこれは個人的な思いになりますが、現在も継続している児童文化学科の紀要『白百合児童文化』の、創刊の精神を引き継ぐものになればとも願っております。

当時の児童文化学科長東洋先生は、まず児童文化学科が学際的な研究・教育の場であり、担当している教員の専攻分野が多様かつ広範にわたることを述べられ、「いろいろな専門の人がただ集まっても、それだけで学際的研究分野が育つものでないことはいうまでもありません。この人々の間に、活発な研究上の交流が生じなければなりません。これはなかなか容易ではないことなのです。専門によって問題のとらえ方も、研究の仕方も、理論の構成も、又、用語も違いますから、同じ専門の仲間で交流していた方が容易だし、学界における評価も得やすいのです」と警鐘を鳴らされました。その上で、「この紀要は、(中略) 学科教員の各自の研究成果や問題意識を率直に述べあうフォーラムとして、私たちの学科が学際性を活かして互いに刺激し合い補い合うための場となるでしょう」と、学科紀要の意義を述べられました。

保育・教育の研究と実践は、子どもたちの発達を支え、文化的な方向づけを行う営みであると考えますが、人間の生活や活動があらゆる分野にわたっていることから、必然的に学際的な領域とならざるを得ません。ともすればそれぞれの専門領域に傾きがちな各教員の研究・教育を、如何にして白百合女子大学の教師養成・保育者養成に結集していくか、これからの私たちの歩みに課せられた大きな課題として追究していく際に、この学科紀要が力強いツールになるものと期待しております。

多くの方にご高覧いただき、ご意見等お寄せいただければ幸甚に存じます。

